

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会

福祉教育部会報

『人間を救うのは人間だ』

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会長 佐久間敦子
(千葉県立松戸向陽高等学校長)

千葉県赤十字会館の1階ロビーに「人間を救うのは人間だ」という表示があります。またJRC（青少年赤十字）の活動は「気づき、考え、行動する」ことを行動指針にしています。本校の生徒たちも所属し、また若手の教職員も教師としての資質向上のため、研修に参加しています。

使命：「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。」

決意：「わたしたちは、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために、利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動します。」

福祉教育とJRCの活動は重なる部分が多く、その理念はまさしく、福祉教育の目指すものです。下線部を「福祉」や「介護」に替えて読んでみても、そのまま通ずる理念です。こうした理念が福祉教育を支える根本になればなりません。人々がよりよく生きるために、何ができるか。そのことが福祉教育の求めるものだと思います。高齢者や障害者の介護の分野にとどまらず、医療・看護・保育や教育等の領域までを包含した幅も奥行きもある教育です。

福祉教育関係校が公立・私立の別なく情報を共有し、教育力の向上と地域福祉の担い手の育成を目指すことが本部会の主たる目標です。人間を救うのは人間です。私たちはこの「人間」を育てています。

福祉教育の充実に向けて

教育振興部指導課 指導主事 大塚 真理子

県教育委員会では、平成24年3月に「県立学校改革推進プラン」を策定し、「道徳教育の推進」と「キャリア教育・職業教育の推進」を重要事項として掲げ、この2点に留意しながら計画を進めています。職業系専門学科・コースでは、農業科、工業科、福祉科に来年度から拠点校を設置し、職業教育の充実を図ることとしています。松戸向陽高等学校でも、福祉教育拠点校に向けて、関係者の御尽力により準備が進められていることに改めて感謝申し上げます。

日本の急激な少子高齢化は、介護・福祉ニーズの多様化と高度化をもたらし、これらの変化に対応できる福祉の人材確保が急務の課題となっています。介護福祉士を養成する専門学科のみならず、総合学科の福祉系列や普通科の福祉コースへの期待も大きくなっています。また、キャリア教育・職業教育の観点からは、専門科目の学びを

通して、職業人としての基本的資質を育み、人間性豊かで社会に貢献・活躍できる人材の育成が期待されています。昨年11月に松戸向陽高等学校・福祉教養科3年生の介護実習報告会に参観したところ、どの発表も福祉の専門科目の学びを生かし、対象者を的確に捉え、自ら設定した課題に真摯に向き合った様子が伝わってきました。発表技術も巧みで、下級生の学習意欲もさらに高まったことと思います。福祉教育を通じて、立派に成長した生徒達がありました。

県では毎年、小・中・高を合わせて25校程度を福祉教育推進校に指定し、次世代を担う児童・生徒の思いやりの心を育て、助け合いと連携の意識を育てています。

今後は、拠点校を中心に関係高校や関係機関との連携がさらに深まり、職業教育の視点を重視した県全体の福祉教育の充実・発展につながることを祈念します。

高校で福祉を学ぼう

このリーフレットは、千葉県福祉・介護人材確保対策事業のひとつとして福祉教育部会が提案・申請し、予算措置されて出来上がったものです。昨年4月から、福祉教育部会事務局である県立松戸向陽高校福祉科若手教員が中心となって、作成に取り組んできました。

まずは、リーフレットの内容を単なる県内福祉関連高校の学校案内ではなく、千葉県の高校福祉教育がどのように行われ、そこで学んだ生徒がどのような進路を実現していくかを中学生にも分かりやすく、興味・関心を持って見てもらえるにはどうしたら



ら良いかをコンセプトに、それを具現化するための案をいろいろと考えました。そこで考え出されたのが、今流行の「ゆるキャラ」で、中学生を高校福祉の現場に案内するという設定で、“ふくぽん”が登場し、福祉教育部会のマスコットキャラクターとして承

認・認定(?)されました。この“ふくぽん”が女子中学生3人に、県内の福祉関連高校を案内し、福祉の授業内容や取得できる資格、施設での介護実習やボランティア、在校生や卒業生のお話を聞くなど、多くのことを学んでいきます。

このリーフレットは、昨年8月の発行以降、福祉関連高校以外に県内のすべての中学校や県社会福祉協議会を通じて、地区社会福祉協議会へ、また県内の福祉関連施設協会や職能団体等にも配付させていただきました。県内にとどまらず、全国福祉高等学校長会主催の福祉全国大会や日本社会福祉教育学校連盟の主催による高大連携の福祉教育研修会等、全国規模のイベントでも配付され、たいへん好評を博しています。

このリーフレットが、人と人をつなぎ、県内だけでなく全国の中学生が福祉に興味・関心を持ち、1人でも多くの中学生が将来、福祉の道に進んでくれることを願ってやみません。また、高校福祉教育のPRの方策のひとつとして、各県の高校福祉教育関係者の参考になれば幸いです。



★福祉教育部会研修会★

「高校における職業専門教育の意義と課題

～福祉教育を中心に～」

東京大学大学院教育学研究科教授 本田由紀氏

12月25日、午前中の福祉教育推進実務者担当委員会に続き、福祉教育部会研修会が行われました。情報交換では、先日、実施要項の発表があった「介護職員初任者研修」の話題が中心となりました。事前アンケートによる県への質問内容について、新たな疑問、質問など、多くの意見が出されました。質問事項については、事務局から、まとめて県へ質問し、回答があり次第、各校へ連絡していきます。

講演会では、「高校における職業専門教育の意義と課題～福祉教育を中心に～」と題して東京大学大学院教育学研究科 教授 本田由紀先生の講演がありました。内容は以下のとおりです。「日本は高度経済期に形成された『戦後日本型循環モデル』の中で教育・仕事・家族がうまく結びついてきたが、バブル崩壊後、循環も破綻してきている。新たな循環モデルとして、『柔軟な

専門性』の方向性が形成される必要がある」としている。

特に専門高校で学んだ生徒は実習などで、実際の現場を体験することにより普通科生徒より、社会への意識が高く、積極的に進路選択をおこなっている。普通高校の福祉コースであっても、実習やボランティアを通じて、ほめられ体験が増えることで、自信を獲得し、学習への動機づけになり、進路選択においても社会とのギャップの差が小さいなどがある。今後、教育と仕事の新たな関係の構築の意義が求められている。



福祉教育拠点校準備会議

平成24年3月に千葉県教育委員会の「県立学校改革推進プラン 第1次実施プログラム」により、福祉教育の充実の一環が示され、平成25年度に千葉県立松戸向陽高等学校が福祉教育の拠点校となることが決まりました。それに伴い、拠点校及び福祉コース、福祉系列設置校の役割分担やネットワークづくり、行政や地域、大学等と連携構築についての検討を目的とし、福祉教育拠点校準備会議が県立松戸向陽高等学校を事務局として設置されました。

委員として、千高教研福祉教育部会加盟校校長をはじめ、大学、専門学校、千葉県社会福祉協議会、介護老人福祉施設、行政等の関係者14名が委嘱されました。

年に3回開催が予定され、県立松戸向陽高等学校を会場に開催されます。

★第1回（平成24年6月11日）

福祉教育拠点校準備会議設置要綱が提案・承認され、県立松戸向陽高等学校の佐久間敦子校長が委員長に、県立船橋豊富高等学校の白波瀬正人校長が副委員長に指名さ

れました。そして、改革推進課の大森英一主幹兼室長、鈴木栄次副主幹から県立学校改革プランについての説明をいただいた後、千葉県高等学校福祉教育の現状の報告、学校間、他機関との連携についての検討がなされました。また、千高教研福祉教育部会に小委員会（福祉教育推進実務担当者委員会）を設置することが決まりました。

★第2回（平成24年11月1日）

県内公立高等学校に対して実施した福祉教育への取組の現状についてのアンケート報告の後、学校間、他機関との連携について更に具体的な議論がなされました。

★第3回（平成25年1月25日）

第1回～第2回の会議及び福祉教育推進実務担当者委員会で検討された結果をもとに、連携を推進する組織の設置、や連携についての具体的な方策が示される予定です。

千高教研福祉教育部会は今後も、福祉教育の連携を推進する組織としての役割を果たしていきます。

新たな研修制度 平成25年4月より開始 介護職員初任者研修

平成25年4月より、現行の「訪問介護員養成研修」は「介護職員初任者研修」に変更されます。

この変更理由には、今後の高齢化の進展や世帯構造の変化に伴い、介護の必要な方の増加があり、それに対応するため、質の高い介護を行う人材を多く増やそうと、社会の中で様々なことが検討されてきたことが背景にあります。

その中で「介護の資格のキャリアパス」という考え方が出てきました。「介護職員初任者研修終了者 → 介護福祉士 → 認定介護福祉士」というように、介護の資格を簡素でわかりやすいものとし、介護の世界で生涯働き続けるという展望を持てるようにしました。この考えのもと、介護職員初任者研修は介護資格の入口として位置づけられます。

具体的な変更内容の1つ目に「カリキュ

ラムの見直し」があります。科目ごとに到達目標（ねらい）、修了時の評価のポイント留意点、展開などが記載されました。これにより、各講義や演習の質が、講師の考え方等によってばらつかないようにします。

2つ目に、「研修修了時に研修の評価を実施すること」です。これにより、研修修了者が一定水準の知識・技術を身に付け、介護現場で働くことができます。

この変更点を踏まえ、各研修事業者は、質の高い介護職員を生むために研修計画を考え実施していくことが大切だと考えます。



加盟校の取組① 千葉県立松戸向陽高等学校

今年度は、来年度から実施される福祉教育拠点校化を視野におき、学校を多くの方に見ていただくという計画のもと、授業や行事を計画・実施しました。

① 3年生介護実習報告会 (11月30日)

6月、10月の合計30日にわたる介護過程の展開について、6名の代表が事例報告をしました。今年度より公開とし、地域の方々や実習施設の指導者様等、たくさんの方がおいでくださいました。

また、福祉教育部会の研修会の一環として加盟校の先生方にも参加していただきました。



↑ 介護実習報告会

② 美容福祉体験授業 (12月11日)

山野美容専門学校の講師の先生をお招きし、2年生を対象に、美容福祉の体験授業をしていただきました。

頭髪を吸い込みながら散髪し、切った髪が飛散することなくベッド上で散髪できる「すいコーム」やベッドの上で快適に疲労感なく洗髪ができる「ハッピーシャンプー」の演示、体験をしました。

普段、目にしたことのない器具を使っの授業に、生徒は好奇心一杯で積極的に参加していました。

大学・専門学校との連携の第一歩として計画、実施しました。山野美容専門学校の先生方のご協力をいただき実現しました。

福祉教育部会の先生方にも見学していただき、生徒、教員ともに充実した時間を過ごすことができました。



美容福祉体験授業→

③ 2年生介護実習報告会 (1月18日)

2年生が、11月に行われた15日間の実習の成果を報告しました。

「利用者さんの状況にあった介護技術とは」をコンセプトに、実習施設毎に全員が発表しました。

パワーポイントや実際の物品を使い、いかに見せるか工夫を凝らした発表でした。

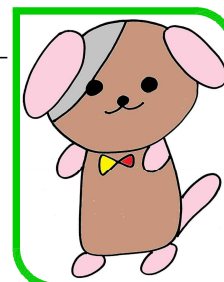
今回も、実習施設の指導者様、福祉教育部会の先生方においでいただき、実習の成果を見ていただきました。

④ 3年生卒業記念授業《予定》 (2月26日)

福祉のカリキュラムをすべて終え、卒業を待つ3年生に、卒業の饗とすべく、卒業記念授業を実施します。

今回は、聖徳大学に講師の派遣をお願いし、松戸地区での福祉の大学と福祉の高校の連携の、最初の試みとして実施します。

福祉教育部会
マスコットキャラクター
ふくぼん



発行：千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会

事務局：千葉県立松戸向陽高等学校

〒270-2223 松戸市秋山682

TEL 047-391-4361 FAX 047-391-8129